

【草花の部屋】

ナノハナ (アブラナ科アブラナ属 brassica)

和名：ナノハナ(菜の花) **別名**：ハナナ(花菜)、ナバナ(菜花)、アブラナ(油菜)

英名：Turnip rape、 Chinese colza

アブラナ目 一年草

原産地：日本、中国

花言葉：快活、明るさ

花色：黄



← 写真-1 ナノハナ

撮影日：2021年2月23日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



←↗ 写真-2、3 ナノハナの花

撮影日：2021年2月23日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

→ 写真-4 ナノハナの葉

撮影日：2021年2月23日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



大和郡山市郊外の家庭菜園で見かけました。春を代表する花の一つとして広く親しまれている植物です。

ナノハナ(菜の花)は、アブラナ科アブラナ属の花の総称で、特にアブラナ(油菜：B. rapa var. nippo-oleifera)またはセイヨウアブラナ(西洋油菜：B. napus)の別名としても用いられます。また、ナバナ(菜花)は、ナタネ、カブ、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、カラシナ、ザーサイなどアブラナ科アブラナ属で主として花を食するものを指します。

「菜の花」の「菜」とは食用、「菜の花」とは食用の花の意味です。食用の菜の花には、葉が柔らかく花茎と蕾と葉を利用する在来種と、葉が厚く主に花茎と葉を利用する西洋種があるそうです。

花は黄色で4枚の花弁が十字状に開き、茎の頂部に密生しますが、花茎を少しずつ伸ばして下から順に開花します。冬から開花する早生(早咲き)から晩生(遅咲き)まであり、早生品種は寒咲きハナナとも呼ばれています。

葉の様子は上下で異なり、下の方の葉には柄があり楕円形、上の葉は柄のない耳のような形で、茎を包むよう生じます。葉の色は濃緑色ですが紫がかった色になることもあるそうです。茎は上部で分岐し、全体としては筍状になります。

アブラナ(油菜)は、アブラナ科アブラナ属の二年生植物で、古くから野菜として、また油を採るため栽培されてきた作物です。別名としてナノハナ(菜の花)、ナタネ(菜種は正式な作物名)などがあり、江戸時代には胡菜(コサイ)または蓼薹(ウンダイ)と呼ばれていたそうです。

江戸時代になって採油目的に栽培され、油は菜種油と呼ばれました。菜種油は、主に灯油原料として利用され、生活に密着したものとなったそうです。明治時代以降、植物油の原料として栽培されているのは、ほとんどが別種のセイヨウアブラナ(西洋油菜)で、現在も採油に使われるのは在来種と外来種の交配種などだそうです。在来種のアブラナ(油菜)は野菜として生産され、開花前に収穫されてしまうことが多いそうです。

春先に各地の川原等で見られる菜の花畑のほとんどは、セイヨウアブラナかセイヨウカラシナ(西洋芥子菜：B. juncea)あるいはそれらの交雑種だそうです。

< ちょっと一言 >

- * アブラナ属以外のアブラナ科の植物には白や紫の花を咲かせるものがありますが、これらを「白い菜の花」「ダイコンの菜の花」ということもあるそうです。